

2015.8.11

## 第5回 中教審生涯学習分科会学校地域協働部会資料

# 学校と地域をつなぐ 人材の配置の在り方

東京学芸大学 松田恵示

# 地域コーディネーターの役割：「信頼の流通」

## 学校

- 教員の多忙化と学校教育課題の複雑化・多様化
- 学校外教育，保育の拡大
- 教育活動への地域住民参加ニーズ大

ボランティアの持つ「主体性」「自発性」の受け入れが難しい

## 地域(学生、企業含む)

- 青年・高齢層のボランティア熱の高まり
- 学校支援専門職の拡大(SSW・SC等)
- 生涯学習成果の活用
- 企業のCSR意識の高まり、NPO活動
- 地域参加の可能性大

学校教育に求められる教育特性の理解と「自省的態度」の担保が難しい

しかし…

信頼関係不成立

○いわば「需要」と「供給」をつなぐ「信頼の流通」システムが必要

= 学校支援の立場から見たコーディネーターに求められる内容

# 「信頼」と「安心」

「安心が提供されやすいのは信頼が必要とされていない安定した関係においてであり、信頼が必要とされる社会的不確実性の高い状況では安心が提供されにくい」

(山岸俊男、「信頼の構造 心と社会の進化ゲーム」、1998、東京大学出版会)



つまり、学校と地域が連携・協働することは、異なる立場の出会いが促進されることであり「社会的不確実性」が増大する場面となる。だからこそ「信頼」が問題となる。



しかし、学校は「安心」を求める傾向にあり、「安心」は「社会的不確実性」が低いとき、つまり、地域の連携・協働者と教員が「コミットメント」を強く形成したときに生まれる。

→「強い靱帯に囲まれている人々は安心して暮らすことができるが、そのために手に入られる情報の量が制限されるというかたちで機会コストを支払っている」

→「機会コスト」が大きい環境においては、高信頼者が大きな利益を得る可能性強い。

(山岸、前掲書)

## 地域コーディネーターの力量：「信頼する力」

- 他者一般を信頼する傾向の強い人

→騙されやすい人、ではなく、見知らぬ人を信頼する傾向が強い代わりに、その人の信頼性を判断するための情報処理を適切に行なうことができる。

- 他者一般を信頼する傾向の弱い人

→顔見知りの特定の相手のみを信頼するが、それは、他者の信頼性を適切に評価できないために生じる。

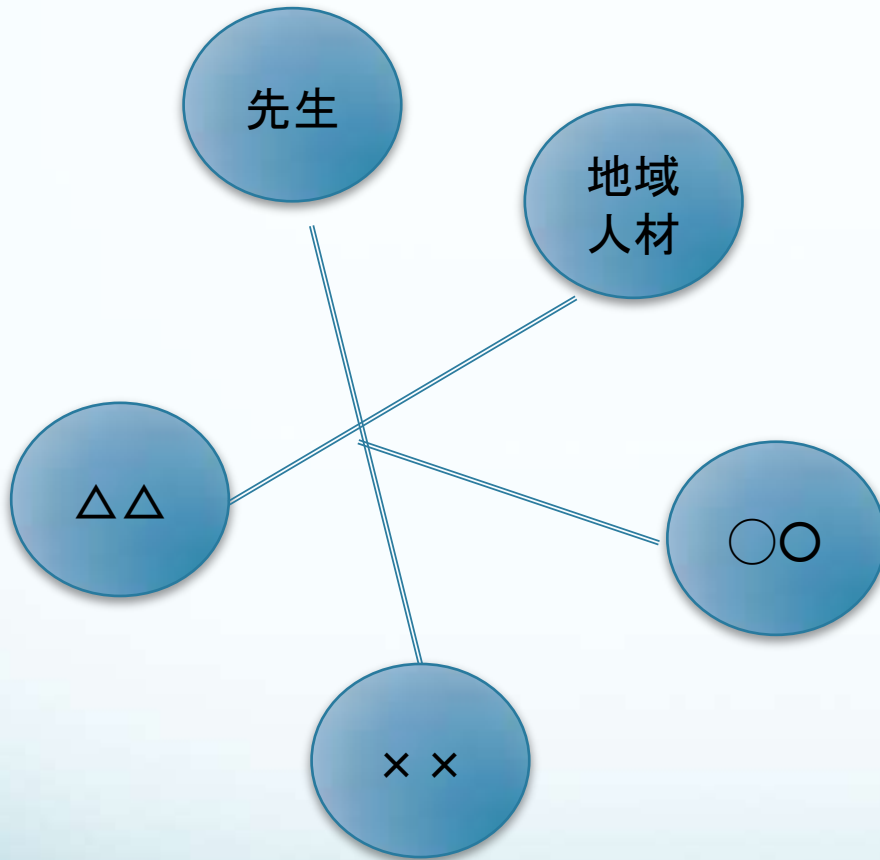
cf.安心社会の日本と信頼社会のアメリカ(山岸、前掲書)

- 「信頼の流通」は、「信頼する力」の強い人が要所に配置されていることから始まる可能性が高い。

# 地域コーディネーターと学校において地域連携を担当する教職員との連携の在り方

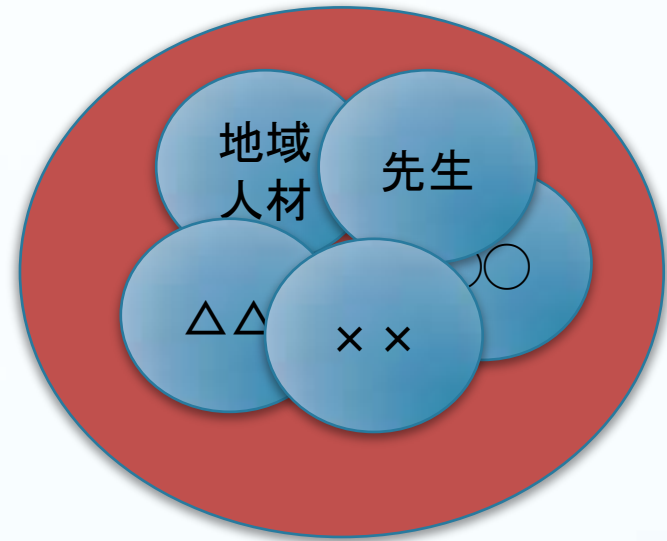
- 「地域コーディネーター」は、学校教員にとっては「他者」  
→ 「コミットメント」を強く形成することは、結果的に「信頼の流通」ではなく、「安心の流通」を醸成し、「連携・協働」は後景に退いてしまう  
(cf.「強い学校支援地域本部」が持つ人材の固定化と「壁」の高さ)
  - 「地域コーディネーター」は「社会教育」の側の人材、地域連携を担当する教職員は「学校教育」の側の人材、この両者の「出会い」による緊張感と「社会的不確実性」を尊重しつつ、「信頼」を築ける「高信頼者」に両者になる必要がある。
- (cf.学校支援の問題を社会教育の内容に「つなぐ」ことが重要?)
- 両者がともにコミットメントから「解放される」ことを創り出すことに向けて連携・協働することが、まずは方針として最重要な確認事項では?

## 信頼関係



チームアプローチと「信頼する」ことの優先

## 安心関係



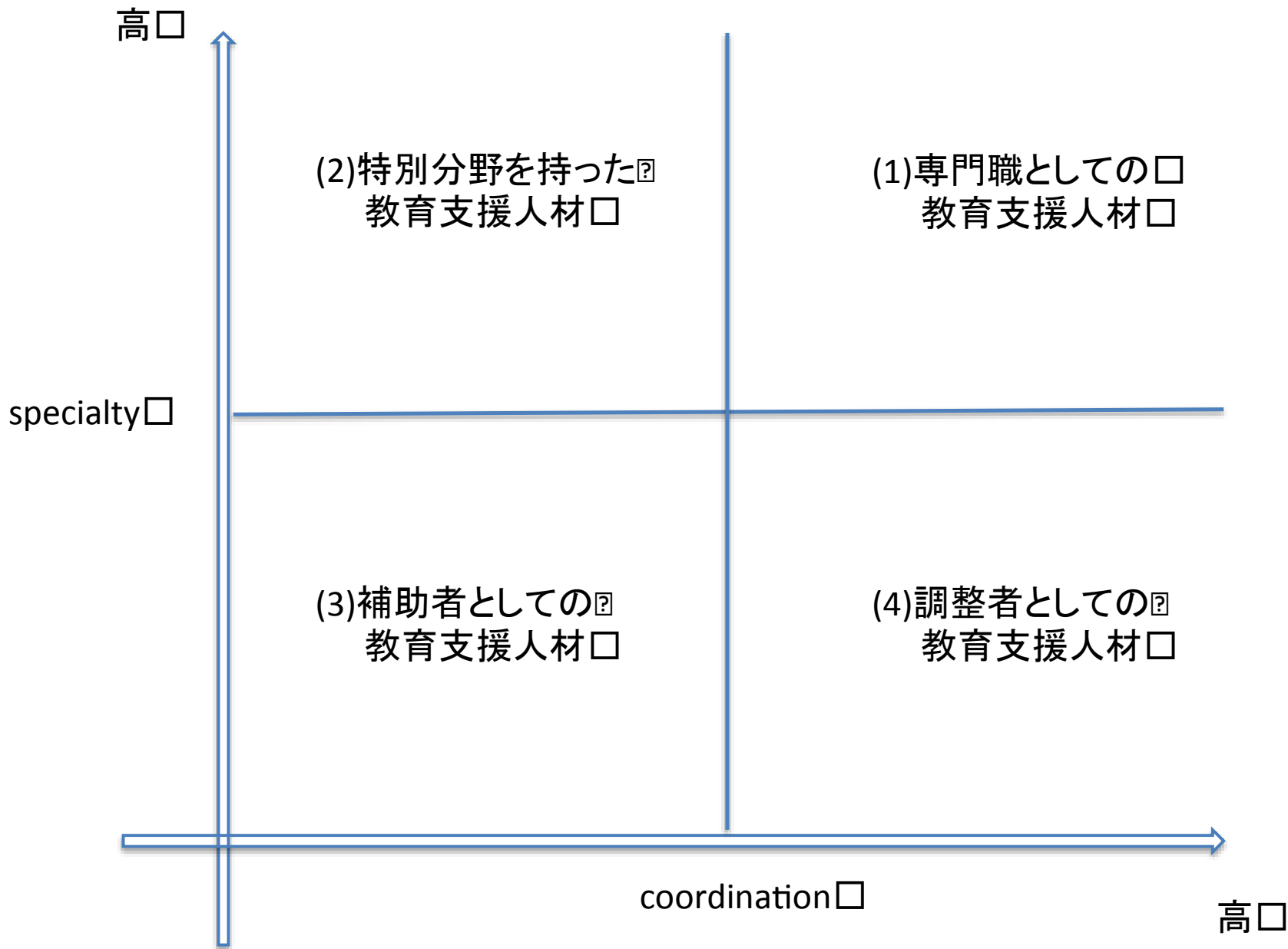
グループアプローチと「信用できる」ことの優先

# 地域コーディネーターやボランティアの養成・研修・確保方策(資格や称号の付与の必要性も含めて)

- 教員(ないし学校スタッフ)に対して、相対的に独立した役割を持ち、「他者性」に基づき連携・協働を進めるためには、生涯学習の成果の社会的評価が必要ではないか。
- 「1.学校教育や社会教育の様々な教育シーンにおいて,2.子どもの「学び」を促進するために,3.他者とのネットワークやパートナーシップを築き調整しながら,4.その力量(知識・アイデアや技術)を形成・発揮するとともに,5.自らの成長を省察し,自己実現を遂げていくという活動に従事する人材」

(木原俊行、「教育支援人材ハンドブック」、2012、書肆クラルテ)

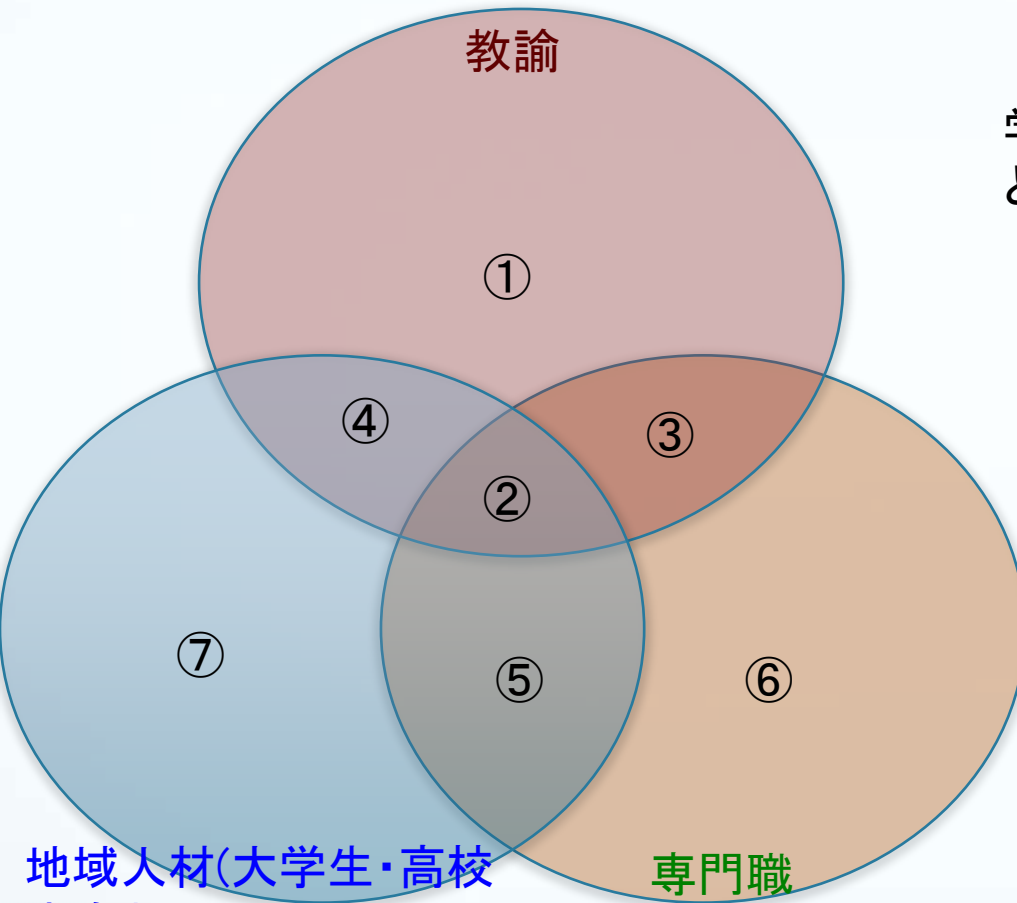
- 第三者機関による、「評価」の活用可能性(大学、各種法人)



教育支援人材の専門性(professionality)



## 学校におけるチームアプローチの多様性と対象領域



地域人材(大学生・高校生含む)

専門職

	教科指導	生徒指導	学校運営	地域外部
① 教諭間チーム	++			
② 総合的チーム	+	++		+
③ 専門職間チーム	+	++	+	+
④ 教諭地域間チーム	++	+	+	++
⑤ 外部間チーム				



# (社)教育支援人材認証協会 「教育支援人材認証制度」

大学間連携により設置した一般社団法人が中心となり、**地域で子どもの教育活動を担う学生・住民の活動を支援するため、一定の受講経験や活動経験を評価・認証する、「教育支援人材認証制度」を構築。**認証者の活動現場は、地元自治体が用意したり、**一般社団法人がプラットフォームとなって地域課題解決のために、地域と連携を図りつつ運用。**

## 〈実施体制〉

「NPO東京学芸大  
こども未来研究所」  
が取組の発展等を  
支援

地元自治体等が  
講座を共同計画

〈一般社団法人 教育支援人材認証協会〉理事長：東京学芸大学長

- ・プログラムの開発・認証
- ・会員大学の地域との連携による講座実施支援、
- ・制度活用・運用支援
- ・認証の管理、更新
- ・養成人材のネットワーク化

②プログラムの認証→

←①プログラムの申請

仕組の活用・運用支援  
パスポートクラブ・遊びの  
タネ活動

〈子どもパートナー〉※標準履修時間4時間  
H.27.4.1 現在 4,798名取得  
〈子どもサポーター〉※標準履修時間12時間  
H.27.4.1 現在 1,497名取得  
〈子ども支援士〉 ※標準履修時間30時間  
H.27.4.1 現在 124名取得  
(GP以降 計3,612名)

地元自治体等が認証  
者の活動場所を用意・  
情報提供

養成人材の出口支援

③養成講座準備

④養成講座実施

⑤養成講座終了

⑥上記社団法人  
において人材認証

⑦養成人材の活用

学校支援地域本部

放課後子ども教室

放課後児童クラブ

その他の子どもに  
関わる事業等

協会加盟大学 H.27.4.1 現在 21大学・専門学校加盟※

※札幌大学、東京学芸大学、東京成徳大学、白梅学園大学、星槎大学、ヤマザキ学園大学、  
明星大学、新渡戸文化短期大学、浜松学院大学、奈良教育大学、東京未来大学  
大阪成蹊大学、千里金蘭大学、中国学園大学、鳴門教育大学、日本文理大学、自由学園  
十文字学園女子大学、聖学院大学、日本児童教育専門学校

## 〈期待される効果の一例〉

- **大学をプラットフォームにして生涯学習を通じた地域づくりに貢献**（地域で学びを通し子どものサポートに協力できる市民・学生人材を育成）
- **大学と地域との連携事業の拡大**（子どもをサポートする事業を協働して実施でき、サポーターの学びを地域課題の解決につなげやすい）
- **学部教育、キャリア教育の一環として有効**（学生が認証取得後にボランティアとして活動。顕彰制度を今後展開の予定）

# 認証の種類

## ①こどもパートナー／4時間

教育支援活動をする人材の母数を増やしていく。

## ②こどもサポーター／12時間(4時間+8時間)

教育支援活動の専門性を深める。

※カッコ書きを使った専門性の認証

EX. こどもサポーター(特別支援)    こどもサポーター(ストリートダンス)

## ③こどもサポートコーディネーター／12時間

教育支援活動をコーディネートする。

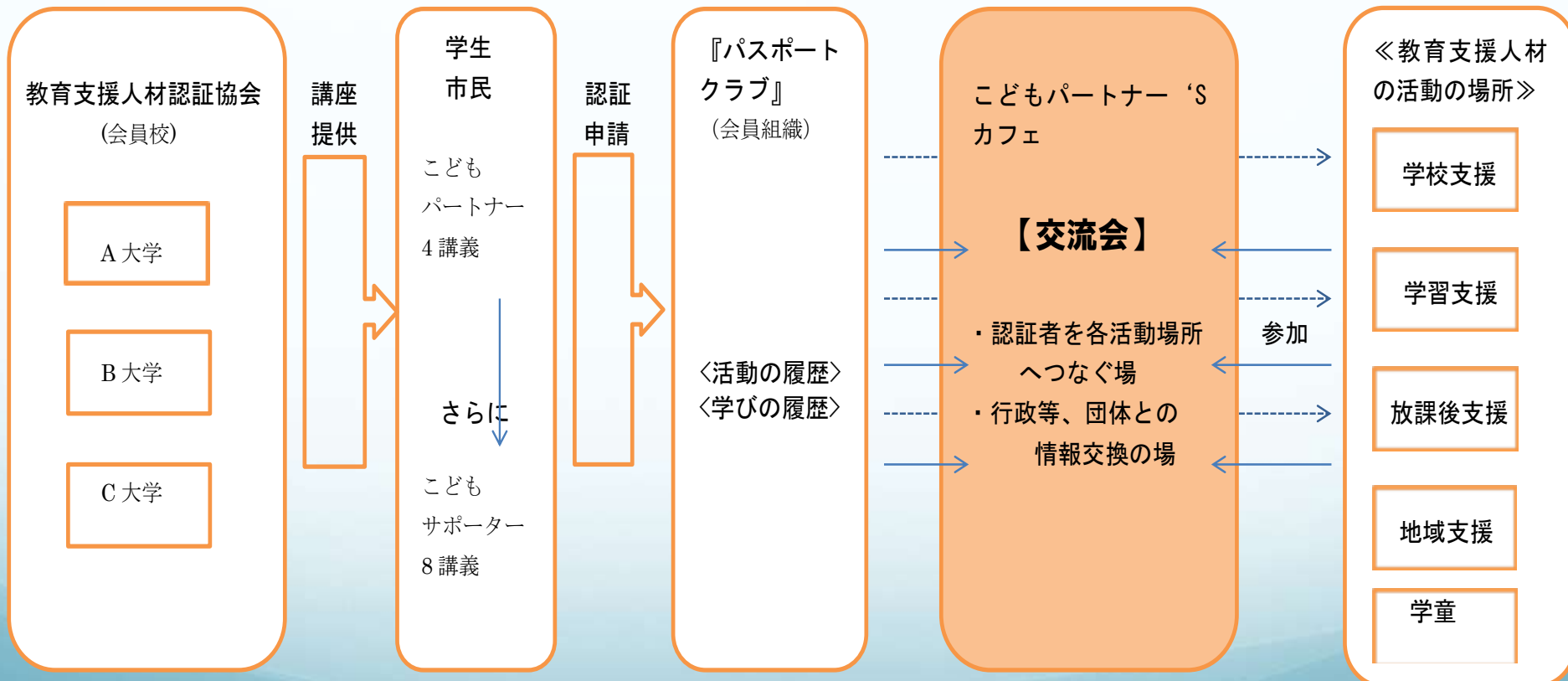
※場を仕切るマネージャー的役割と人材をリンクさせるネットワークカー的役割

## ④こども支援士／30時間

教育支援活動をキャリア化する(チーム学校、子育て支援員など)



## 教育支援人材認証講座受講者の流れ



# 「パスポートクラブ」シール設置団体

【徳島県】社会福祉法人 藍住町社会福祉協議会

## 【千葉県】

- 八千代市役所 生涯学習部生涯学習振興課
- 地域子育て支援センターすてっぷ21勝田台
- 地域子育て支援センターすてっぷ21大和田
- 八千代市役所 子ども部元気子ども課
- 新川わくわくプレーパーク

## 【奈良県】

NPO法人 奈良地域の学び推進機構

奈良教育大学

大阪成蹊大学 芸術学部

千里金蘭大学

大阪国際大学

## 【大阪】

- NPO法人 SEAN
- (特非) きららの木
- 子育て支援NPOキッズファインカラー
- 笠岡ゆうゆうクラブ

日本文理大学

中国学園大学

鳴門教育大学

浜松学院大学

## 【東京】

- NPO法人 ワーカーズコープ
- 足立に冒険遊び場をつくる会
- 特定非営利活動法人 足立区地域で子どもを育てる会
- 足立区子ども家庭部青少年課

自由学園

日本児童教育  
専門学校

## 【東京】

- 黄金ネットワーク～障がい児の父親の会～
- 小平市国際交流協会
- NPO法人 冒険遊び場の会
- NPO法人 ユーパーク
- 子育てサロン@SACHI
- 特定非営利活動法人 遊び文化NPO小金井こらぼ
- 特定非営利活動法人 こがねい子ども遊パーク

## 【北海道】

- (福)北海道クリスチャンセンター福祉会
- ねこぼっこのいえ
- 豊平区役所市民部西岡まちづくりセンター
- 豊平区役所市民部地域振興課
- 豊平区役所保健福祉部健康・子ども課
- (特非)北海道障がい者乗馬センター
- 児童ディサービスセンター 悠々クラブ
- 児童ディサービス 愛愛倶楽部
- NPO法人札幌大学スポーツ・文化総合型クラブ
- 札幌大学女子短期大学部

札幌大学

東京成徳大学

新渡戸文化短期大学

白梅学園大学

東京学芸大学

十文字学園女子大学

ヤマザキ学園大学  
星槎大学

聖学院大学

明星大学 教育学部

東京未来大学

NPO法人 東京学芸大こども未来研究所

## 【東京】

- NPO法人アクティブシニア応援団
- NPO法人トーータルサポート府中
- NPO法人ライフデザイン推進協会
- 外遊び喜び総合研究所
- NPO法人地域子育て支援センター
- NPO法人府中YSS
- NPO法人じーばーとあそぼ PPK
- NPO法人地域教育ネット
- NPO法人アクティブジュニアクラブ
- 小金井青年会議所
- 小金井ボランティアセンター
- 日本女性学習財団
- ひの教育センター

# 事業を展開させるなかで

- 地域課題としての「教育的ニーズ」を明確に捉えることを地域とともに行なうこと
- 人材の活用は、「学び→活用」のリニア型発想ではなく、「『課題①→学び①→活用①』⇔『課題②→学び②→活用②』⇔∞」のスパイラル型発想で
- 学校(実践・現場)との連携はコーディネーターの介在と「プロセスの共有」が必要、加えて「ICT」は学校は大の苦手
- 「学び」や「認証・資格」の質保障は、「内容」側面に比べて「講師」側面が大きいのでは
- 第三者機関としての大学の活用
- 地域コーディネーターの効果的な配置の在り方や全校区配置に向けた方策に向けて

# 教師と専門性

- 知識基盤社会における「指導者」の変化
- 「教える/学ぶ」関係の原型は「弟子入り」にあり…本物の文化の担い手  
(ex. 武道、芸術、茶道、職人)である「師匠」と「弟子」
- しかし、近代になって「学校」での「教える/学ぶ」はこの関係ではなく、新しい情報は学校にあり、それは示されており、むしろ「教え方がうまいこと」が教師の専門性になった
  - …文化の担い手ではない「先生」
- ところが、情報化が進む社会にあって、「教えること」の情報は学校外にも豊か → 教え方がうまい、だけでは通じない時代の到来
- 「コーディネーター」としての専門性 ex. 「検索サイト」の存在